

第39回

うつのみやこども賞だより

令和4年度 10回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『トーキングドラム』

佐藤 まどか／著 (PHP研究所)

『てつぼうの鳴る浜』

森川 成美／作 (小学館)



令和5年3月5日

読めば
愉快だ
宇都宮

宇都宮市立図書館

UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

～読んだ本の感想より～

- 自分はピアノを習っているのですが、登場人物の気持ちがよく分かった。買うのではなく作るという考えがおもしろかった。
- 林さんが作っていたドラムの皮が演奏会前日にやぶれてしまいどうなるかと思ったが、皮のはりかえが間に合ってよかったなと思いました。
- 4人でがんばって楽器を作ることがすごい。
- マッキー・タヌ・健太・愛ちゃんと一緒にドラムを作り始めるところが良かった。音楽が好きな人におすすめ！
- 虐待やネグレクト以外にも、家にいたくない理由のある子がいることが分かった。
- なかった物を他の物で工夫して作ったりできて、すごいなと思った。



- 歴史とファンタジーが同時に楽しめて面白い本でした。鏡で未来を見て大事なことを教えてくれる「いと」が200年前から来ていてびっくりしました。
- 竜玄の「運を変えようと思うな。」「運を楽しめ。」という言葉が心に残りました。悪いことでも良いことでも運にまかせてやってみる。そのおかげで長種も助かったので、楽しむことも大切だと感じました。
- 竜玄が死んだとき、とても悲しかった。戦とは、人を殺す残酷なものだなと思った。ウクライナとロシアのことを思うと、早く止めてほしいと思える。
- 「運を楽しめ」私は、この言葉を心の中に入れて、今後の人生を歩んでいきたいなと思いました。

『ブレーメン通りのふたご』 夢内 明子／作 (フレーベル館)

- マキとカツラがそれぞれちがう個性を持っていて、まりあさんとえりあさんと4人で話しているところを読むと、ほっこりしました。
- まりえりが本当のふたごじゃない！と気づいたときは、とてもおどろいた。
- 2人組のふたごでも、こんなに仲よくできるんだと思った。
- ふたごの生活が描かれているのが面白かった。私と妹では性格がほとんど似ていないから、納得できる部分があってよかった。

『おにのまつり』 天川 栄人／著 (講談社)

- 悩みや問題を抱えた5人が、途中トラブルに会いながらも、徐々にうらじゃを完成させていてとても感動した。
- いろいろな人の視点から物語が進んで、とてもおもしろかった。練習の時は大変そうだったけれど、無事に踊りきれてよかった。
- みんな元気で楽しそうにやっているけれど、心の中には不安などを抱えていて、本当はみんな仮面をかぶっているんだなと思いました。
- みんなが協力しながらうらじゃを踊って、それぞれの気持ちと向き合っていて、すごいと思ったし、感動した。